

議事録

委員会：令和4年 第2回杉並区消防団運営委員会

日時：令和4年10月24日（月） 午前10時から10時42分まで

場所：杉並区役所中棟5階 第3・4委員会室

1 開会

（危機管理室長）

それでは、定刻になりましたので令和3年10月諮問、第2回杉並区消防団運営委員会を開会いたします。私は、司会を務めさせていただきます危機管理室長のテライでございます。どうぞよろしくお願いたします。では、以降、着座で進行させていただきます。

本日は柳下委員が欠席で、今のところ来られていないということですので、16名中15名がいらっしゃっておりますので、本会議の定足数は満たしており、有効に成立をしておりますことをご報告いたします。

2 委員長挨拶

（危機管理室長）

それでは、会議の開催にあたりまして、当消防団運営委員会の委員長であります岸本区長よりご挨拶をお願いいたします。

（岸本委員長）

皆さん、おはようございます。

（委員一同）

おはようございます。

（岸本委員長）

着座でもいいですか。すみません。今日はこのユニフォームを着て、この会議に出られることを大変誇らしく、うれしく思います。今日どうぞよろしくお願いたします。委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中、杉並区消防団運営委員会にご出席いただき、まことにありがとうございます。本委員会の委員長を務めさせていただきます、杉並区長の岸本聡子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本委員会は都知事から示された諮問に対して、皆さまでご議論いただき、ここに出されました意見をまとめて都知事に答申するという、重要な役割を担っております。諮問事項につきましては、「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方法はいかにあるべきか」ということでございます。本日は、昨年度末の第1回委員会で委員の皆さまからいただいたご意見を反映し、答申案としてまとめております。消防団の皆さまには、区民が安心して暮らすまちを守るという使命のもと、地域においてさまざまな消防・防災の活動にご尽力いただき、地

域防災力の一翼を担っていただいております。今後も区民が安全に安心して暮らせるまちをつくっていくために、限られた時間ではございますが、皆さまからの活発なご議論をどうぞよろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

委員長、ありがとうございました。それでは、本題に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。資料をご覧ください。まず、表紙、次第がございます。次第の次が、資料の1、杉並区消防団運営委員会答申書(案)です。そして、資料の2が杉並区消防団運営委員会答申(案)概要です。それから、資料の3が今後の審議予定(案)で、資料の4が、当委員会の委員会の名簿でございます。そして、別添で第1回委員会における各委員からの意見となっております。よろしいでしょうか。不足等ありましたら、挙手をしていただけますか。よろしいですか。確認ありがとうございます。

続きまして、今回は委員長を始め、多くの委員の変更がありますので、全委員から自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、資料4の名簿の順番でお名前をお呼びしますので、できましたらご起立の上、自己紹介をいただければと思います。それでは、委員長よろしいですか。岸本委員長、もう一度自己紹介をお願いしてよろしいですか。

(岸本委員長)

区長の岸本聡子です。

(危機管理室長)

では、以降、名簿の順番で、田中委員お願いします。

(田中委員)

杉並防火防災協会の会長をやっております、田中です。どうぞよろしくお願い致します。

(危機管理室長)

では、秋山委員、お願いします。

(秋山委員)

おはようございます。杉並防火女性の会の会長をやっています、秋山です。よろしくお願い致します。

(危機管理室長)

マイクもございますので、使っていただければと思います。大崎委員、お願いします。

(大崎委員)

おはようございます。杉並防火管理研究会の会長を務めております、大崎と申します。よろし

くお願いいたします。

(危機管理室長)

では、井口委員、お願いします。

(井口委員)

皆さん、おはようございます。私は、荻窪防火防災の会長の井口でございます。よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

それでは、長張委員、お願いいたします。

(長張委員)

おはようございます。荻窪防火女性の会の会長をいたしております、長張と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

それでは、名簿の順番にまいります。酒井委員、お願いします。

(酒井委員)

おはようございます。この運営委員会は3年目になります。女性の立場で防災ということ、消防ということを考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

吉田委員、お願いします。

(吉田委員)

おはようございます。区議会議員の吉田あいでございます。私も消防団員の一員として、今回、いろいろ知識を深めさせていただければなと思っております。よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

では、山本委員、お願いします。

(山本委員)

おはようございます。区議会議員の山本ひろ子です。私は、第4分団の消防団にお世話になっております。これからしっかり参加してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

続きまして、川野委員、お願いします。

(川野委員)

おはようございます。区議会議員の川野たかあきでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

へんみ委員、お願いします。

(へんみ委員)

おはようございます。区議会議員のへんみ純一です。よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

では、岡田委員、お願いします。

(岡田委員)

皆さん、おはようございます。杉並消防署長の岡田です。本日は活発な、建設的な審議、よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

では、福田委員、お願いします。

(福田委員)

おはようございます。杉並消防団長の福田と申します。よろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

では、大橋委員、お願いします。

(大橋委員)

おはようございます。本年4月に着任いたしました、荻窪消防署長をしております大橋と申します。何とぞよろしくお願いいたします。

(危機管理室長)

では、須藤委員お願いします。

(須藤委員)

おはようございます。今年から荻窪消防団長になりました、須藤英夫と申します。前回の会議

では、おそらく前団長の浅賀さんが出ていらっしやっただと思います。初めてなんで、ひとつよろしく願いいたします。

(危機管理室長)

ありがとうございました。

3 議事

(1) 杉並区消防団運営委員会答申(案)について

(危機管理室長)

それでは、配布してあります次第に基づき、進めさせていただきます。議事に入ります。(1) 杉並区消防団運営委員会答申(案)について、資料1、2から杉並消防署、岡村警防課長にご説明をお願いいたします。

(杉並消防署警防課長)

おはようございます。杉並消防署警防課長の岡村と申します。本日、答申案につきまして、ご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。杉並区消防団運営委員会答申(案)について、ご説明をさせていただきます。資料につきましては、冒頭にご説明がございましたが、資料1、資料2、別添のほうを活用したいと考えております。

まず、資料1につきましては、杉並区消防団運営委員会答申書(案)になります。こちらは目次がございます、それ以降、1ページから7ページまで記載をさせていただいております。次に資料2をご覧ください。A3版の大きい紙になっております。こちらのほうで、答申(案)の概要を記載しておりますので、後ほど説明をさせていただきたいと思っております。最後の別添資料をご覧ください。こちらの別添資料につきましては、第1回委員会における各委員からのご意見いただいたものを記載させていただいております。こちらを反映させた形で答申案を作成いたしました。

それでは、答申案の概要につきまして、ご説明をさせていただきます。資料2をご覧ください。初めに、繰り返しになるかと思えますけれども、諮問事項からお話しさせていただきます。まず、諮問事項です。大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか。諮問期間につきましては、令和3年の10月から令和5年の3月までとなっております。

次に、趣旨です。特別区消防団は、それぞれの地域との密着性を活かしながら、災害発生時においては消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割を担うなど、地域住民から頼られる存在であります。今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の大規模地震発生時においては、その特性を活かした迅速な出場による消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、東京消防庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となります。このことから、消防団の実践的な対応力の更なる向上が、大規模地震発生時における「より効果的な活動」につながると考えられることから、特別区消防団の消火活

動能力の向上方策について諮問するものであります。

課題1から課題4までございます。まず課題1、課題内容です。継続的な図上訓練や活動マニュアルの整備は行っているが、大規模地震に特化した実践的な訓練又は放水訓練は十分であるとは言い難い。課題における検討事項です。1、実践的な現場活動能力の向上。2、訓練実施環境の改善や実施場所の確保。3、消防団員及び消防職員の教育。推進方策です。1、防火水槽や消火栓を活用した訓練、遠距離送水訓練、緊急走行訓練、無線通信訓練及び消防団現場指揮本部運営訓練等を可能な限り参加型の訓練とし、消防署隊と連携した震災訓練を継続する。消防団を主体とした訓練に、署隊が参加する訓練及び主催機関が実施する訓練に消防団が参加する訓練等、その目的と効果を明確にした訓練を計画する必要があります。2、日常的に自由度及び優先度が高い訓練実施環境が必要であり、目的にあった場所を確保するためにも、杉並区、近隣事業所及び各関係機関等との連携が必要であります。3、消防職員への消防団に関する教育を実施し、災害現場及び各種訓練におけるお互いの意思疎通を高める必要があります。

課題の2です。課題内容、新型コロナウイルス感染症の影響により、実働的訓練の減少から消火（放水）活動能力、技術の低下が危惧される。課題における検討事項です。1、感染防止に配慮した効果的な実働訓練の実施。2、デジタル環境の充実。推進方策です。1、教養システム（eラーニングシステム）による事前学習により、参加型訓練の時間短縮、効率化を図り、最大限の効果をj得る必要があります。2、火災シミュレーション、延焼シミュレーション及び実災害の映像を教養資料として充実させる必要があります。

課題の3です。課題内容です。消防団員数の不足に伴い、活動力の低下が危惧される。課題における検討事項です。1、募集広報の充実・強化。2、対象に応じた募集広報の継続及び強化。3、大規模災害時における人員確保。推進方策です。1、スマートフォン保有率及びインターネット利用率はいずれも80%以上といえることから、消防団募集広報で十分活用できる媒体であります。SNS等を最大限活用することで、世代を問わず消防団の魅力をアピールできる。2、若い世代、事業所及び女性等、ターゲットに合わせた募集広報を強化する必要があります。3、定年が近い団員、退団した団員、看護師等の資格保有者に対し大規模災害団員を周知し、退団抑制を図ります。

課題の4です。課題内容です。消防団員の平均年齢の上昇に伴い、各種活動面における負担軽減に配慮した資機材の整備が望ましい。課題における検討事項です。新たな資機材整備及び既存資機材の軽量化等による負担軽減。推進方策です。女性団員、高齢団員及び新入団員に対しては、活動時の負担軽減のため資機材の軽量化や既存資機材の改良を図る必要があります。

以上が、杉並区消防団運営委員会答申の案となります。以上で私からの説明は終了させていただきます。

（危機管理室長）

それでは、ただいまの説明にございました答申案ですけれども、ご質問やご意見があれば、お願いをいたします。酒井委員。

(酒井委員)

消防団員数の不足に伴ってという、募集のところで、今年定年が近い団員、退団した団員ということなんですけれども、定年というのは何歳などということを決めているのか。それとも、本人の状況によってかということ、どうなのでしょう。

(杉並消防署警防課長)

定年年齢につきましては、杉並区は70歳となっております。

(酒井委員)

着座でよろしいですか。すみません。ただ、その人の状況によっても、かなりいろいろな健康状態などで、70を越えても元気な人は元気なんですけれども、やはり本人がやると言って、それは……。でも、やはり70で切っているということでしょうか。

(杉並消防署警防課長)

定年の延長制度もございますので、74歳。大規模災害団員につきましては、80歳までということになってございます。

(酒井委員)

ありがとうございます。ちょっと安心しました。地域を見てみると、やはり高齢化が進んでいると思うんですけれども、70代でもすごく元気な方はいっぱいいらっしゃるの、そこでもつたないなというふうに思ったものですから。分かりました。女性団員や高齢者の団員に対する配慮などということ、機材の軽減などでされているということで、今後もこういう配慮が大事かなと思っています。以上です。

(危機管理室長)

ほかにご質問、ご意見ありましたら、お願いします。山本委員、お願いします。

(山本委員)

よろしく申し上げます。ここの内容とちょっと違うかもしれない。お話をうかがっていてちょっと疑問に思ったのが、私の消防団の中を見ますと、お仕事、お勤め人であったりする方も多いので、実際に日中、消防団が出動しなければいけないといったときに、どれだけの……。昼間人口が、杉並区はどうしてもお勤め人がいますので少なくなると思うんですけれども、そういったときの各消防団、分団ごとの昼間人口がいなくなったときに、活動できる人数というのは把握されていらっしゃるのかなというのが、ちょっと疑問になって。実際に訓練していて、夜とか、わたしも出動するときは、夜とか、お正月とか、そういうときは出動することがあったんですけれども、なかなか実際に発災したときの人口というのはどうなんだろうなという。今、人数が少ないという課題のところから疑問に思いまして、ちょっと質問させていただきました。

(杉並消防署警防課長)

お答えします。大変ちょっと申し訳ないんですけども、杉並区からお仕事に出て行かれて、日中、平日とか、杉並区内にいらっしゃる団員の方の人数、ちょっとはっきりとは把握していないのが現状でございます。申し訳ありません。

(危機管理室長)

よろしいでしょうか。吉田委員。

(吉田委員)

すみません、ありがとうございます。答申案、なるほどと思いながら読ませていただきました。その中で課題1の中の2番、訓練実施環境の改善や実施場所の確保というところですか。たしかに私が所属している分団でも、操法訓練の前、操法大会の前に、水を出す訓練となるとなかなか……。公園でやるにしても場所、水を出していいか、場所の確保、水を出していいかどうかの、公園の管理者さんとの確認とか、なかなかそれで苦労すると。けっこう盛り上がって声が出てしまうと、今度、近隣の方からの苦情が来たりして、水を出すのも気を遣うし、声を出すのも気を遣うしと、そういうところが悩ましいなど、そういうのはたしかにあると思うんです。

そこで、推進方策のほうに、目的にあった場所を確保するためにも、杉並区、近隣事業所及び関連機関等の連携が必要であるというふうに書かれております。たしかになるほどと思うんですけども、具体的にどのような連携をイメージされているのか。例えば、杉並区として、何かこういうことだったら区の施設を、例えば開放することができるよと。区のほうとしても、何かアイデアを考えているのか。例えば、だいたい訓練というと夜や土日が多いと思うんですけども、学校の校庭を開放するなど、そういうふうな、何かそういうことができたらいいとか、何かアイデアというのか、考えていらっしゃるのかなというのをちょっと確認させてください。

(区担当者)

防災団長のほうから。まず、この間のポンプ操法訓練においては、ちょっと杉並ではなくて、荻窪の例になるんですけども、今年度の活動については、杉並中継所跡地で大会のほうを初の試みという形で行いました。場所のほうも、あそこはご存じのとおり、地下に入っていて、日常は利用がほとんどないというところで、訓練実施の前からかなり……。休みの日は昼間も含めて、平日は夜をメインに、場所のほうは、活用はいただいたんです。一方で、吉田議員が入っています杉並消防団のほうでとなると、この間、区としても、場所としていつも使われている公園の横というような形で、今、具体的なものはないんですが、ただこちらにありますので、どういった形がとれるか、消防さんと引き続き調整を図っていきながら、場所をなんとか確保していきたいなと考えております。

(杉並消防署警防課長)

民有地等も含めまして、今、杉並区さんからのご説明もございましたが、区の公園であるとか、そういった公共施設、広い場所を提供していただきながら、消防署といたしましても、署の訓練にあわせて、ご協力をいただいている場所で、水が出せる場所等を確保したりとか、そういった

ところをしながら、消防団とともに訓練できる機会と場所、環境をつくるようにしております。

(吉田委員)

ありがとうございます。

(危機管理室長)

よろしいでしょうか。それでは、ほかにご質問、ご意見等ありましたら、お願いいたします。
田中委員、お願いします。

(田中委員)

田中ですけれども、今一つ前の質問、希望の中にあつた、消防団員の参集率が悪いと。昼間どうしてもお勤めの方は地元にはいらない、という話が先ほどありましたけれども、できれば、お勤めされている企業、団体さんに、消防団員が非常時に、出動が必要だなと感じたとき、企業さんが協力していただけるよう、消防庁あるいは杉並区、東京都のほうから要請をかけていただいたらどうかという気がするんですけども、いかがでしょうかね。

(杉並消防署警防課長)

すみません、杉並区の企業ではなくて、杉並区の団員が？

(田中委員)

お勤めの方が杉並区内とは限りませんので、お勤めされている方で消防団に加入されている方、その企業に対して、自分は消防団員をしていると。万が一の場合、出動許可とか、そういったものを願えないだろうかというような、企業に対しての協力要請というものをお願いできないものかなと思って。

(杉並消防署警防課長)

現段階では、そういった決まりごとや、制度はないということなんですけれども、この答申案の中にそういう確保の意味も含めて、ちょっと入れていきたいなというふうに考えておりますけれども、よろしいでしょうか、それで。

(田中委員)

はい、わたしは構いませんけれど。できれば、そんなふうなお願いごとをしておくのがいかなかなと感じました。どうしても今、杉並区内でも、消防団員も減少してしまっていて、地元企業の、職業を持っている方は、自分の家業に準じて自分の出動する時間を確保することは可能なんですけど、お勤めの方ですと、なかなか杉並区を離れてしまう方も大勢いらっしゃると思うんです。それがどれだけ出動に関わる時間を企業さんが与えてくれるかどうか分かりませんが、それもひとつ考えたらいかなかなというふうに思ったので、今発言しました。

(杉並消防署警防課長)

はい、ありがとうございます。そういったところで、出づらいとかというところが、ちょっと消防団員数の確保の足かせになってはいけなかなというふうに感じますので、課題の3の消防団員の確保のところで、ちょっと答申案のほうで盛り込みさせていただきたいと考えております。

(荻窪消防署警防課長)

すみません、荻窪消防署の警防課長イガラシと申します。よろしくお願いたします。今のご質問で、ちょっと補足をさせていただきます。消防団協力事業所というものが各消防署管内にございまして、荻窪でいいますと、八つの企業、事業所に協力をいただいているところです。そこから企業の会社員の方、数名を消防団に登録いただいていると。職員を出していただけないところは、訓練場所を提供していただくとか、そういった協力をいただいている状況でございます。

(危機管理室長)

よろしいでしょうか。それでは、ほかにご質問、ご意見ありましたら、よろしくお願いたします。へんみ委員。

(へんみ委員)

へんみです。よろしくお願いたします。改めまして、福田団長、須藤団長を初めとする消防団の皆さま方の日ごろのご尽力には、本当に心より感謝申し上げます。ちょっと答申案とは少し変わってきてしまうんですが、震災発生時に消防団の消火能力を向上させるにはどうしたらいいかという考えの中で、一つ、民間の方、いわゆる消防団に入っていない民間の方のご協力というの必要なのかなという気がします。先日、本署地区の防災訓練、善福寺川緑地の裏でやっているところへ参加したんですけれども、スタンドパイプとD級ポンプだったと思うんですけれども、最後に放水訓練をしたんです。放水訓練をする中で、もちろん消防団の方が最前線に立って、最後放水をしてくださるんですけど、実際に中継として連絡役を担われていたのが田中会長だったんですよ。という部分もあって、民間の方が参加してくださって、途中の中継をしてくださるとか、そういうこともやってくださる方が大勢いらっしゃる。特に、団友会を始めとするOBの方もいらっしゃる。これを見ていて、当然、いつもやってくださっているんですけども、地域の防災訓練等々でご指導をいただいておりますので、そういう部分でより一層、触れたことない方が、訓練でどういうものなんだと、放水というのはどういうふうにしてやるんだというのを理解していただければ。実際にホースを持つまでにはいなくても、どこかご協力をいただけたら、より一層、少し団員の方々の手間が減るのかなあというような気がします。どうですかね。なんか遠回りなようで、近道な気はするんですが。

(杉並消防署警防課長)

はい、ありがとうございます。私たちも、いろいろな場所であったりとか、実施方法であったりとか、検討している中でありますので、今、委員のほうからも提案がありましたけれども、今後ともまた地域の方等のご協力をいただきながら、効果的な訓練を進めていきたいというふうには考えておりますので、貴重なご意見ありがとうございます。

(危機管理室長)

では、ほかにご意見、ご質問ありましたら、お願いいたします。井口委員、お願いします。

(井口委員)

わたしは荻窪の井口でございます。消防団の皆さんのいろいろなお話を聞きますと、訓練をやるところがないと。道路でやれば、交通妨害になると。学校においても、訓練は大概、消防団の皆さんは生業を持っていますから、夜にやるわけですね。夜は貸さないということで、ほとんど学校の運動場も借りられない状態であると。だから、訓練をしたくても、なかなか十二分に訓練ができないというのが状況ですね。それをなんとか改善してもらえれば、もっと訓練が有効に、また成功裏に終わると思うんですよ。

それから、消防団の皆さんの、私は地域の連合町会長と単位町会会長をやっていますが、消防団に入ってくれというんですけど、なかなか今、生業を持って……。もとは商店街とか、そういう二代目の方は、お父さんの仕事を継ぐというのが多いんですけど、今、大概サラリーマンになっちゃうんですね。そうすると、消防団に入りたくても、サラリーマンをやっていると、なかなか消防団に入る機会がないということをよくおっしゃるんです。まず、一番問題は、消防団の訓練ですね。訓練の場を設けてもらいたいということ、よくおっしゃいます。そういうことでございます。

(杉並消防署警防課長)

貴重なご意見ありがとうございます。また、いろいろ、場所の確保等、私どもも地域の方と連携しながら実施していきたいと思っております。ありがとうございます。

(危機管理室長)

酒井委員。

(酒井委員)

区議の酒井です。すみません。一つ、訓練のことなんですけれども、課題2の推進方策のところで、教養システム（eラーニングシステム）というものがあるんですけども、これはもう事前に学習が始まっているのでしょうか。どんなふうになっているのか、ちょっとお聞きしたいなと思いました。

(杉並消防署警防課長)

こちらはタブレットが各分団に配置されておりまして、スマホを活用した、対面方式とは異なるような自己学習システムになっております。ですので、時間があれば簡単に見られるような、そんなような形になっております。

(酒井委員)

自己学習、それも大事ですよ。集団で見たりして意見を出しあったりなどということにも活用できるということでしょうか。これからやはり、まだコロナが、感染がなかなか終息しない中で、活用が大事だと思います。ありがとうございました。

(危機管理室長)

ほかによろしいでしょうか。ご意見ありましたら。ご意見やご質問ありましたら、お願いいたします。田中委員、お願いします。

(田中委員)

たびたびすみません。今のお考えの中に、消防団員の教育の部分ですけども、各分団それぞれ時間を設けて、いろいろ切磋琢磨して活動に値するような勉強会をされているので、杉並消防団は団長がおとなしいから、わたしが代わって話してしまうんですけども、これも過去の自分の経験からの話です。団本部としても、各分団長を参集させて研修会を開いていますので、その頻度としては各分団で違ってきますので、なんともお答えできないんですけども、ただ消防団員としては一生懸命やっています。はい、団長に代わりまして。

(杉並消防署警防課長)

ありがとうございます。

(危機管理室長)

では、ほかにご質問、ご意見ありましたら。よろしいですか。

(2) 今後の審議予定 (案)

(危機管理室長)

それでは、続きまして、議事2のほうに入ります。議事2の審議でございます。今後の審議予定について、引き続き、では、岡村警防課長からお願いいたします。

(杉並消防署警防課長)

今後の審議予定 (案) でございます。資料3をご覧ください。第1回は3月に行いまして、第2回が本日となりまして、今後、3番の第3回委員会です。(1) 令和5年3月ごろを予定しております。(2) といたしましては、今回を踏まえまして、答申のとりまとめを行いたいと考えております。4、東京消防庁へ答申報告、各委員への答申送付、令和5年3月末ごろを予定しております。5、都知事への報告。令和5年4月中を予定しております。今後の審議予定 (案) につきましては、以上となります。

(危機管理室長)

それでは、ただいまの審議予定 (案) について、ご意見等ありましたら、お願いいたします。では、よろしいでしょうか。第3回の本委員会を令和5年の3月ごろに開催をすることといたしま

して、答申のとりまとめを行いたいと思います。開催日等が決まりましたら、改めて開催通知書をお送りいたしますので、よろしく願いをいたします。審議事項は以上となります。

5 閉会

(危機管理室長)

最後に、では、岸本委員長から閉会の言葉をお願いいたします。

(岸本委員長)

皆さま、今日はどうもありがとうございました。答申について、有意義な議論ができたことを、大変有意義に思っております。今日、私は本当に皆さんとともに、皆さんに勉強させていただきながら、この防災ごとを非常に中心課題として考えている者なんですけれども、そして責任を持っている者なんですけれども。いろいろな意見がある中で、へんみ委員から、民間の方々のお力ということも今日お聞きしました。ご存じのように、防災協定・・・杉並区の企業の方、ジェイコムとか、杉並商工会、商工会議杉並支部やトラック協会の方々たちとの防災協定についても、私も就任してから学ばせていただいたりしております。非常に皆さん、消防隊員ではない、団員ではないんですけれども、非常に熱心で、いざというときはそれぞれの力を活かして、一緒に尽力してくれている力強い杉並区内の企業さんたちが、企業群の方たちがたくさんいることとかも、今まで学んでまいりました。

また、今日の議題とまったくかぶるわけではないんですけれども、私はまちづくりに関していろいろな対話を進めておまして、その中で、防災というものが非常に大きな中心的な課題であるということも、本当に普通の区民の方々からお聞きしています。ですので、皆さまの経験と知見と、そしてネットワークを、まさにこのまちづくりの中でも、防災というものがもっともっと融合して経験とかが共有できるような、そういうことを考えながら、今日のお話を聞いておりました。本日は本当にどうもありがとうございました。それでは、これにて消防団運営委員会を閉会いたします。

(危機管理室長)

ありがとうございました。これで、運営委員会を終わります。